

F ACULTY D EVELOPMENT

I N V I T A T I O N

山梨大学教育人間科学部

第 18 号

October. 30, 2006

2006 年度第 1 回 FD ウィーク（授業公開）報告

昨年も好評でした「FD ウィーク」が本年度も引き続き行なわれました。本年度は 7 月に 2 回の授業公開が行なわれ、11 月には第 2 回目の FD ウィークが計画されています。本年度第 1 回目の FD ウィーク公開授業は、芸術系と人文系の若手のお二人の先生にお願いしました。

第 1 回目：7 月 11 日火曜 2 時限

美術教育講座、井坂健一郎先生「絵画応用表現 I」（対象学年は 2 年～3 年）

第 2 回目：7 月 18 日火曜 5 時限

幼児教育講座、秋山麻実先生「ジェンダーと子ども」（対象学年は 1 年～4 年）

まず井坂先生の公開授業の「絵画応用表現 I」は、この授業の中で行っている絵画制作 A、B のうちの A に関する講評会と B に関するエスキース（イメージスケッチ）の発表で構成されました。授業を開始するにあたって井坂先生から「絵画応用表現 I」のねらいが説明されました。絵画制作 A では置かれた同じモチーフ（静物）を自由に表現すること、B では言語や写真から受けたイメージを自由に絵にすることが求められています。前半部分では、完成された A に関する学生の発表と、それに対する井坂先生の講評がありました。同じモチーフであっても 6 名の学生の絵画表現は面白いほど異なっていました。「なぜ、その位置から描いたのか」「何を描きたかったのか」「そこで過ごした時間や感じたことがどう表現されたのか」「好きになった対象が美しく魅力的に表現されている」「油絵を楽しむ気持ちが伝わってくる」等の井坂先生の丁寧な質問や感想が述べられ、絵画表現について深く考える貴重な時間となりました。B のエスキースに対してはさらに学生の個性を引き出すような井坂先生からのコメントがありました。この授業は実技ですが、講義形式の授業でも個々の学生の気づきや思いを大切に、自己表現させていく工夫が必要ではないかと考えさせられました。

次に秋山先生の公開授業の「ジェンダーと子ども」は、ジェンダーに関するこれまで自分の中にあつた先入観やステレオタイプの考え方に疑問を抱かせ、ジェンダーについての新たなフレー

ムワークを作らせることを目的とした授業のように感じました。ただ、秋山先生は、これまで女性への見方や扱いについての問題点を教え込むというスタンスではなく、この問題を考える材料はいろいろ与えるけれど、あくまでその解釈は学生自身に委ねるというものでした。授業は、まず前の授業の感想のプリントへのコメントから始め、次に「ジェンダーと子どものワークシート」というプリントが配布され、これまで読んだ昔話に登場する女性にどのような印象を持ったかを考えさせる、という課題が学生に与えられました。学生は、まずそのシートを1人で埋め、次に5人程度のグループで意見交換を行いました。意見交換の間も秋山先生はグループ間を飛び回り、議論発展の触媒の役割を果たしていました。話し合いが終わると次はグループの発表の段階に移りました。各グループの発表の1つ1つに丁寧なコメントを加え、違う視点を与えることを秋山先生は行なっていましたが、授業の最後に「日と月とターリア」や「アリテ姫の冒険」などの一般的なパターンを持つ、自力で幸福にはならず最後に王子と幸せな結婚で終わるような、男に幸福にしてもらう女性の姿が描かれたものではなく、自立するお姫像を描いた物語例を出し、お姫様のお話にも現在までに転換があることを述べていました。これについての感想を書かせることを最後の課題として授業を終えました。

秋山先生の授業には非常に躍動感があり、先生は100人以上の多数の人数を非常に効率良くコントロールしていました。「不便を感じる人に想いを寄せるために、こうしたジェンダーの勉強が必要なのだ」という秋山先生の授業中のコメントが非常に印象に残りました。

なお、今回の2つのとても個性的で素晴らしい公開授業野後に残念に感じたことは、授業公開への参加者が非常に少なかったことです。日程等に工夫の余地はあるかとは思いますが、後期のFDウィークにはぜひ1人でも多くの先生方に参加してもらいたいと考えます。(F.T)

FDウィーク公開授業(その1):「絵画応用表現I」

〔授業者の思い〕 実技系の授業において重視すべきこと:井坂健一郎(美術教育講座)

今回公開した「絵画応用表現I」は、前期の14回の授業において、油絵具、水彩絵具、アクリル絵具などを用いて2つの課題制作をさせています。前期の前半では、教員が教室(アトリエ)内にセットした静物モチーフを自由に表現するという課題を与え、前期の後半では、教員が用意したさまざまな写真図版から学生がイメージを膨らませ、自由に画面構成をして、より多様な絵画表現を考えるという課題を設定しています。また、この授業では試験やレポートを課す代わりに、授業の15回目、つまり試験期間にあたる時に講評会を行っています。それは、前期に制作した2枚の作品をアトリエ内に並べ、それらの作品を前にしながらディスカッションを行うという機会にしています。この際、教員が一方的に学生の作品を講評するのではなく、学生個々に制作意図を語らせ、作者本人をはじめ授業を受けている他の学生も交えた対話を中心にしながら作品を鑑賞していくことを徹底しています。今回の公開授業は、本来、前期末に行うこの講評会というかたちを見ていただきました。

実技系の授業は、ただ描けばよい、つくればよいというのではなく、論理的にも造形という問題をとらえるという学習が必要であると考えています。また、自己の作品を他者にもわかるように説明する力も不可欠でしょう。特に教員養成を目的とする実技の授業ならば、そのことは軽視できません。私の授業では、学生個々の作品をもとに「対話する造形」を大事にしながら「教育を造形する」ことも楽しんでいけるようなことを心がけています。

そして何より、「絵画」がただ単に「絵を描く」という作業ではなく、「生きている自分を確認できるもの」のひとつであるということと、「美術」が、すべての人間には持ち得ていないものであっても、「美」はさまざまな形で人間の心に存在するものだという事を学生に感じてもらいたいと思っています。

[授業参加者の感想] 教員・学生アンケートの結果

今日の提案ではどのような点が工夫されていましたか。

◎学生と対話している。学生主体で授業が形成されている。うらやましい。

◎学生の発想を大切にして、それを生かせるような助言・指導があった。

◎対話型、双方向型の授業であった。

自分の授業に生かせる点はどのようなことですか。

◎学生との質疑応答を多く取り入れるように努めること。

◎学生の考えを生かすような指導を取り入れてみたい。

お気づきの点を自由にお書きください。

◎対話しながら授業を進行している所が良いと思った。私の授業では、一方通行的に理解してもらえるように進めなければならない点がある。卒論や修論においてできるだけこの方法を取り入れたい。

◎学生同士も人間関係が築かれており、授業の雰囲気がとても暖かだった。

◎多人数の授業方法についても検討する機会を持ちたい。



FD ウィーク公開授業（その2）：「ジェンダーと子ども」

【授業者の思い】 授業公開を終えて：秋山麻実（幼児教育講座）

今回公開しました「ジェンダーと子ども」では、子どもをとりまく文化や社会におけるジェンダー（性による分割）問題を扱っています。今年度は、生殖、家族、性教育、性風俗、物語（マンガ、アニメーション、昔話等）といったテーマを取り上げました。共通科目なので、特別な関心をもたずに受講する学生もおり、毎年、いかに身近なことがらにひきつけてジェンダーを論じるか、また「正しさ」についていかに硬直せず考える機会をもつか、ということ意識して、気楽に取り組めるテーマでグループ討議を重ねるようにしてきました。

今年度から、学生の感想や意見を、匿名で次の授業時に配布したところ、面白い意見交換の場となり、女性専用車両、好きな服装や色、避妊や中絶、偏見や個人の自由といった話題をめぐって、さまざまな意見が出ました。多くの学生が、繰り返し思考するという作業をしてくれましたし、また授業テーマ（性風俗）を提案してくれた学生もいました。

公開時は、学生の提案したテーマが終わった後で、学期の終わりに向けてどのようにまとめていくのか少し迷っていた時期でした。結局、ジェンダーの視点から繰り返される批判にはどのような意義があるのかを考えるために、ジェンダー視点を用いて書き換えた物語を扱うことにし、その第一回目として、学生にはお姫様の登場する物語を思い浮かべてもらい、その特徴や面白さ、ジェンダー視点からの批判について講義をしました。

ご参加くださった先生方からは、学生の頭の中に浮かぶ例やイメージが、講義の論点に対して適切かどうかといった、当日の授業内容についてのコメントや、ジェンダーを扱う際に、よりインパクトのある語り口が必要ではないかといった、授業全体の方針に関わるコメントをいただきました。テーマ設定の段階の揺れや、そのために生じた時間配分のまずさ等については反省しきりですが、それ以上に、コメントをいただくことで、聞き手の頭の中についてゆっくり想像をめぐらせる機会となりましたし、また、より実験的で創造的、ときに挑発的な作業を組み込む授業の可能性を考えることができ、本等に貴重な学びの機会となりました。どうもありがとうございました。

【授業参加者の感想】 教員・学生アンケートの結果

今日の提案ではどのような点が工夫されていきましたか。

◎学生の感想（前回についての）を取り上げ、それに対するフィードバックから始めているのは、学生の参加意識（意欲）を高める上で有効であろう。

◎学生が参加する授業作り。

◎最初は本日の到達点が見えていないが、各自が課題について考え、グループ討論し、発表する中で授業者が考えつつ、他者の意見を聞きながら、最後にゴールが見えてくる点。

自分の授業に生かせる点はどのようなことですか。

◎大クラスであっても、対話的コンタクトを維持しようとするところ。グループ作業の最中も、個別グループとの意見交換を行ない、議論を活性化させていた点。

◎理論を極めていく過程で学生の参加を促すところ。

お気づきの点を自由にお書きください。

◎大変生き生きとした話し方で、大勢の学生を相手にしながらも、ある種対話の雰囲気があった。

◎学生のこの授業の受講動機、そして受講によっての意識の変化が知りたいです。